

1	審議会名	第4期第4回社会教育委員会
2	日 時	平成25年3月21日 午後2時から午後5時まで
3	会 場	上田市教育委員会第二庁舎大会議室
4	出席者	安井幸次委員、春原尚江委員、西田力委員 竹田貴一委員 犛山永子委員 関和幸委員 山浦美幸委員
5	市側出席者	浅野生涯学習課長、土屋文化振興課長、大滝上田図書館長、宮澤生涯学習課長補佐、中村生涯学習係主査
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	25年 3月29日

協 議 事 項 等

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議事項
 - (1) 平成25年度上田市文化支援事業(補助金)について

(事務局)平成25年度前期1団体の採択及び補助額について説明。(文化振興課長より)

(委員)どのような団体か。申請の受理方法、補助額は。

(事務局)市民11名から成る実行委員会で組織され、営利目的でないことが前提となっている。補助事業は、前期後期の年2回受け付けている。補助額は、全体の総事業費からチケット収入を除き、半分を補助する。実施4回目以降は、1/10補助となる。
 - (2) 上田市子ども読書活動推進計画(案)について

(事務局)上田市教育委員会で作成した上田市子ども読書推進計画について説明。(上田図書館より)

(委員)小学校の読み聞かせに入っているが、本の選択に苦慮している。年代にあう本の選択ができればいい。

(事務局)低学年はリズム感のあるもの、絵を見ても楽しいものなどといわれているが、高学年であっても低学年の本が喜ばれたり、年齢制限はない。

(委員)ボランティアが難しくなっている。法律が通ってから読み聞かせは誰でもできることに発展し、読む人の自己満足になっている感もある。子どもの自主的な読書活動を家庭が担うことが基本だが、学校での読み聞かせの主体は、学校が理念を持って行ってほしい。その方が、家庭への働きかけもしやすい。朝読書が始まった経過、読書教育はなんのために行われているかなど、新しいことをするのでなく、当たり前のことをきちんとする、大事なものをどう守っていくかという視点が必要。今回それが整理された。学校図書館の司書は、勤務時間等も制限があり、学校規模によっても差がある。子どもの読書活動を推進するためにも、それぞれの学校の図書館に一定の本がそろっていることが必要で、何でもエコールで活用すればよいということではない。

(委員)ブックスタートはいつからはじめたか。公民館事業、青少年育成事業の中でも本の大切さ、面白さなどを訴えていく必要がある。

(事務局)平成18年4月1日から全市的に実施。今後は、公民館とも連携を図っていきたい。また読書活動推進については、さまざまに周知していきたい。

(委員)図書館はレファレンス業務を大事にしてほしい。

(委員)司書への研修はどのように行っているのか。

(事務局)市独自の研修はなく、館長、正規職員、パートを対象に、国や県、図書館協会が主催する講座が年に何回もあり、それぞれに参加している。

(委員)上田市でも子どもの読書離れは起きているのか。

(事務局)全国的には極端に下がっているが、上田市では小中学校への本の貸出数は約5万冊。学校によってばらつきがある。図書館司書の力が大きい。

(事務局)いろいろ御意見をいただいた点を修正し、定例教育委員会に諮り部長会議にかけ、今年度中に市民に公表していきたい。
 - (3) その他
 - ・生涯学習シンポジウムの開催結果報告
 - ・上田情報ライブラリーの公募館長の検討について